

うきたむ風土記の丘第33回企画展『縄文時代草創期の石器工房  
一日向洞窟遺跡西地区』記念講演会 2025年11月9日(日)

## 日本列島の縄文時代草創期と日向洞窟遺跡

佐藤宏之 東京大学

## 本日の内容

### 1. 東アジアと日本の土器文化

- (1) 研究の歴史: 日本列島における最古の土器の追求
- (2) 更新世末～完新世初頭の気候環境変動
- (3) 東・北東アジアにおける土器の出現 世界最古の土器出現
- (4) 日本列島における縄文化 縄文文化の範囲

### 2. 晩氷期の環境変動と人々の適応: 縄文時代草創期 16,500～11,500年前

- (1) 源溯期 16,500～15,500年前 氷期末期 (LGM-Cold2) 寒冷
- (2) ●隆起線文土器期 15,500～13,000年前 晩氷期前半 (ベーリング・アレード) 温暖
- (3) ●爪形文・押圧縄文・多縄文期 13,000～11,500年前 晩氷期後半 (ヤンガー・ドリアス) 寒冷

### 3. 本格的な縄文文化の成立: ●縄文早期の文化と生活 温暖・湿潤

文化要素の出現と変化: 貝塚、丸木舟、土偶、石器、住居跡、集落

縄文早期の生活: 狩猟、漁撈、採集、居住、道具(土器、石器)、交換・交易、精神生活

●: 日向洞窟遺跡の存続時期

## 東アジアと日本の土器文化: 研究の歴史: 日本列島における最古の土器の追求

### (1) 本ノ木論争が発端

新潟県本ノ木遺跡の発掘成果の解釈をめぐる論争

1956年 芹沢長介発掘 大量の石槍(+押圧縄文土器)→非共伴 →旧石器時代終末と理解

1957年 山内清男発掘 大量の石槍(+押圧縄文土器)→共伴 →無土器新石器時代と理解

→その後論争が継続 →芹沢説

→現在では、非共伴(本ノ木遺跡の再調査[斜面崩落])→ 石槍は旧石器時代末、押圧縄文土器は草創期後半

### (2) 草創期の提唱

山内清男・佐藤達夫 1962「縄文土器の古さ」『科学読売』12・13

山内清男・佐藤達夫 1964「日本先史時代概説」『日本原始美術体系1』講談社

山内清男 1969「縄文草創期の諸問題」『Museum』224→縄文時代の6期区分の確立(草創・早・前・中・後・晚)

→山形県日向洞窟遺跡出土の隆起線文・押圧縄紋・多縄紋

→山内の草創期: 押型文以前=撚糸文以前 BC2,500が上限

vs.小林達雄の草創期(1962年): 押圧縄紋以前=撚糸文から早期→現在有力

### (3) 青森県大平山元1遺跡の発掘調査

1976年最初の発掘→神子柴系石器群+無文土器、石鏃→最古の縄文時代

1998年14C年代測定→15,500～16,500calBP →氷期の「縄文土器」

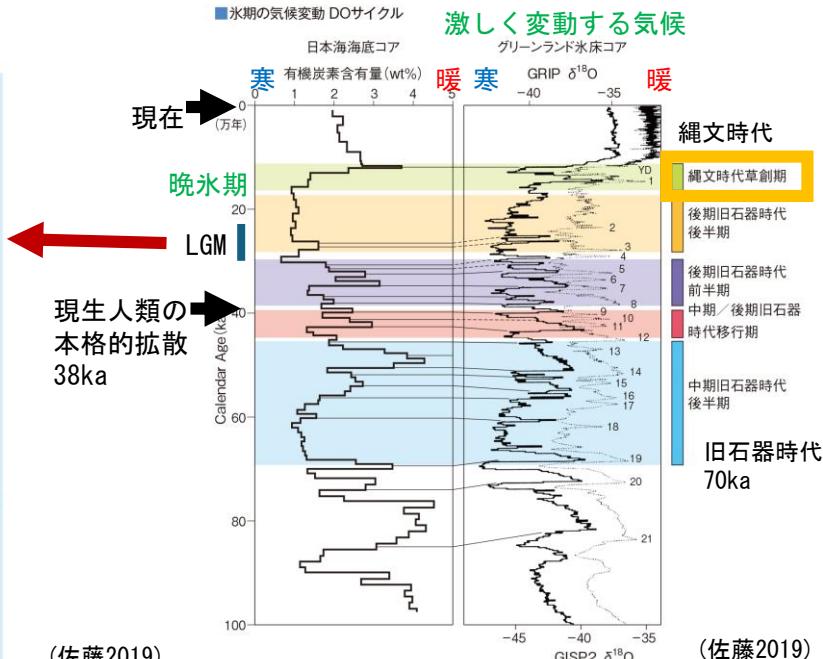
### (4) オシポフカ文化の土器

山内・佐藤説により、縄文文化の「北回り」起源説が盛ん

→アムール下流域の最古のオシポフカ文化の土器・石器が起源候補→東・東北アジアの土器文化との比較研究

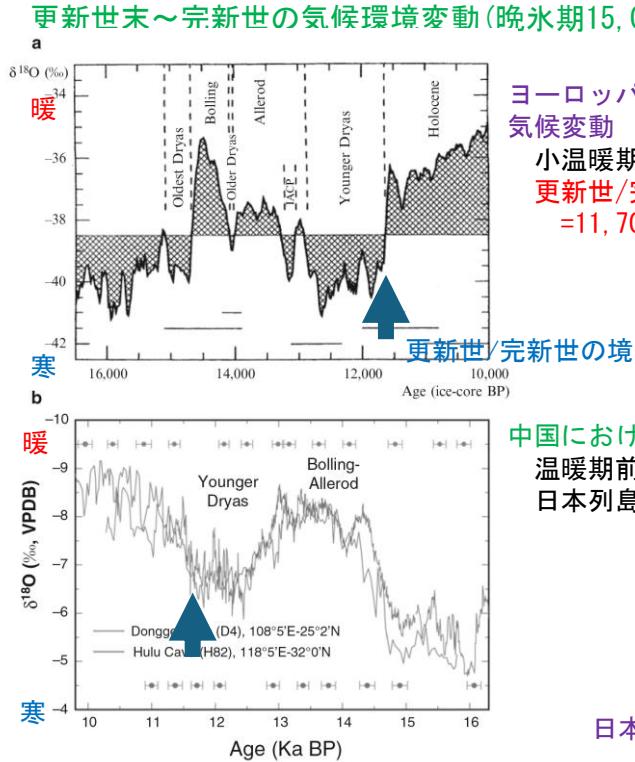


薄いトーンの部分は-140メートルの水深のライン。LGMのときの海岸線を示していると推定されている。狭いながらも津軽海峡と朝鮮海峡は存在しており、古本州島は島であった。



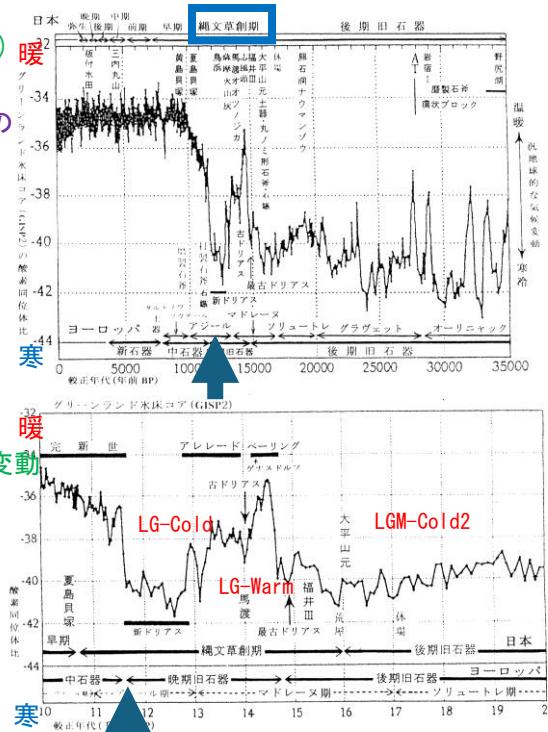
日本海とグリーンランドから得られたコアによる過去10万年間の気候変動を調べたところ、両者はよく似ていることから、この気候変動は地球規模で起こっていたことがわかった。グラフの右にいくほど温暖であり、左に行くほど寒冷なことを示している。GRIP・GISP2はグリーンランド氷床中央部の2か所のボーリング地点を指しており、それぞれ実線と点線で変動曲線が書かれている。点線横の数字は温暖イベントを意味する。

(佐藤2019)

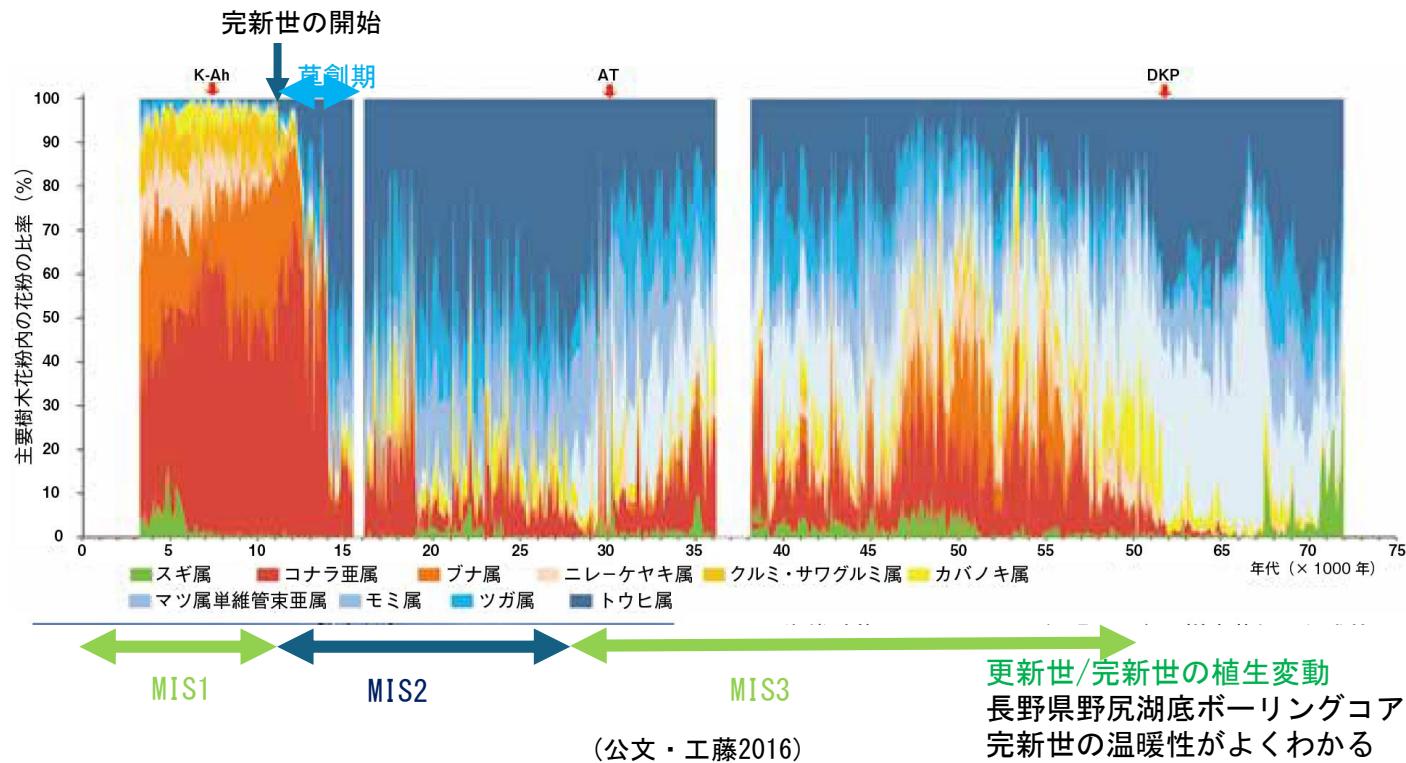


## ヨーロッパにおける晩氷期の 気候変動

小温暖期2回+小寒冷期3回  
更新世/完新世の境界  
=11,700年前



## 日本列島における気候変動



## 晩氷期から完新世へ

更新世/完新世移行 1.17万年前=縄文時代早期の開始

更新世: 寒冷・乾燥した大陸性気候 短周期変動 不安定

氷期 針葉樹中心の疎林・草原  
大中型草食獣狩猟中心 without漁撈・採集  
広域遊動 壺穴住居なし 磯群  
狩猟具中心 槍、ダーツ

↓  
草創期=5000年間の助走期間

↓  
完新世: 温暖・湿潤な海洋性気候 安定  
\*世界各地で農耕・牧畜開始

間氷期 溫帶森林  
中小型森林棲獣狩猟 + 堅果類採集 水産資源漁労  
定着的生活 集落、貝塚、墓、弓矢、加工工具、漁労具

森林性新石器文化

(工藤2024)

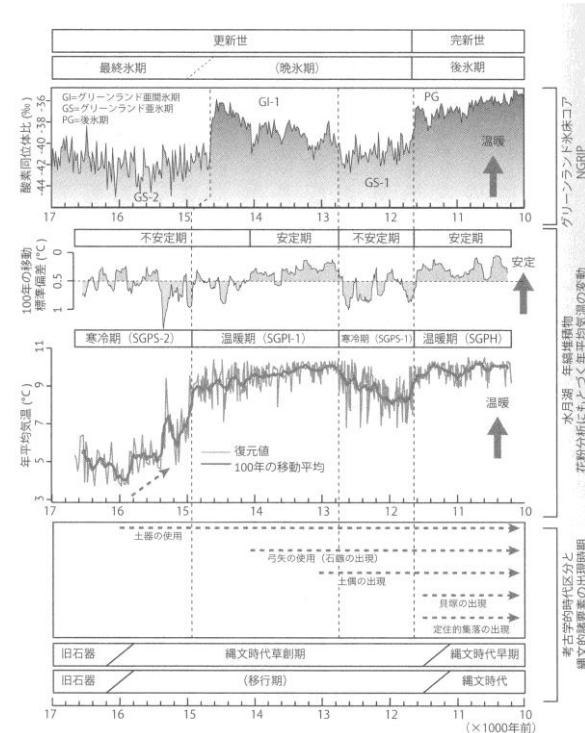
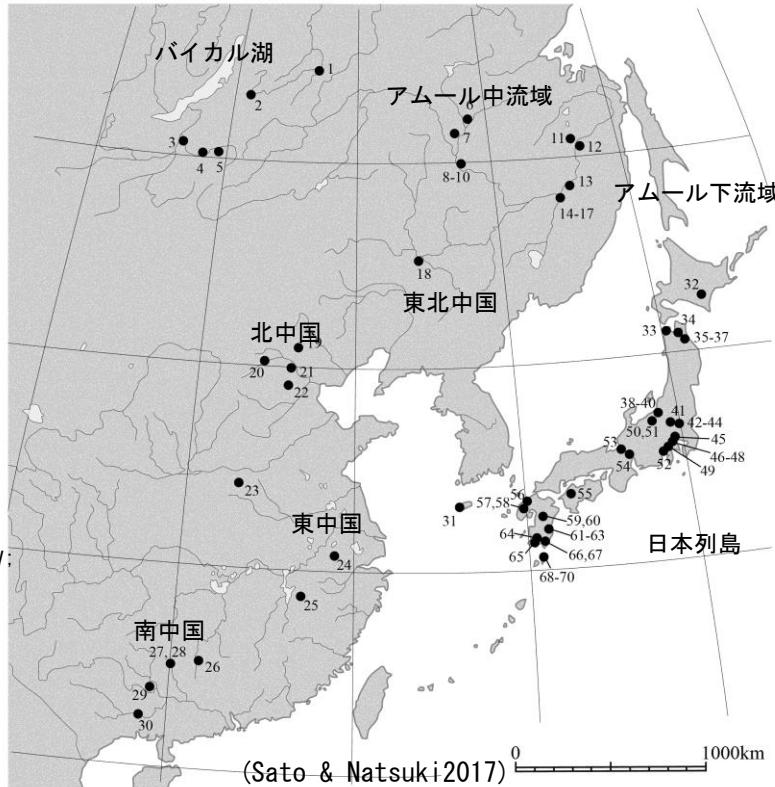


図1 1万7000～1万年前のあいだの古環境変化と考古学的編年との時間的対応関係  
グリーンランド氷床コアはNGRIPのGICC05年代モデルを使用。水月湖のデータは[中川 2023]による。

## 東・北東アジアにおける出現期 土器出土遺跡の分布

- 1, Ust' -Karenga VII; 2, Krasnaya Gorka; 3, Ust' -Kyakhta 3;  
4, Studenoe 1; 5, Ust' -Menza 1; 6, Gromatukha; 7, Sergeevka;  
8, Novopetrovka 2; 9, Novopetrovka 3; 10, Novopetrovka 4;  
11, Yamikhata; 12, Khummi; 13, Gasha; 14, Goncharka 1;  
15, Oshinovaya-rechka 10; 16, Oshinovaya-rechka 16;  
17, Novotroitskoe 10; 18, Houtaomuga; 19, Zhuannian;  
20, Yujiagou; 21, Donghulin; 22, Nanzhuangtou; 23, Lingjin;  
24, Shenxiadong; 25, Xianrendong; 26, Yuchanyan;  
27, Zengpiyan; 28, Miaoyan; 29, Liyuzui; 30, Baozitou;  
31, Gosanri; 32, Taisho 3; 33, Odai-yamamoto I; 34, Akahira I;  
35, Takihata; 36, Kushibiki; 37, Kiwada; 38, Unoki-minami;  
39, Jin; 40, Kubodera-minami; 41, Saishikada-nakajima;  
42, Tako-minamihara; 43, Yakushiji-inaridai; 44, Nozawa;  
45, Gotenyama 2N; 46, Shonan-fujisawa campus; 47, Manpukuji;  
48, Tsukimino-kamino loc. 2; 49, Miyagase-kitahara;  
50, Nakamach loc. BP5a; 51, Seiko-sanso B; 52, Kuzuharazawa IV;  
53, Torihama; 54, Aitani-kumahara; 55, Kamikuroiwa;  
56, Obara D; 57, Senpukuji; 58, Fukui cave; 59, Kawayo;  
60, Takahata-otonohara; 61, Tsukabaru C;  
62, Kiyotake-kamiinoharu loc. 2; 63, Kiyotake-kamiinoharu 5;  
64, Kenshojo; 65, Shikazegashira; 66, Higashi-kurotsuchida;  
67, Kiriki-mimitori; 68, Okunonita; 69, Sankakuyama I;  
70, Onigano.

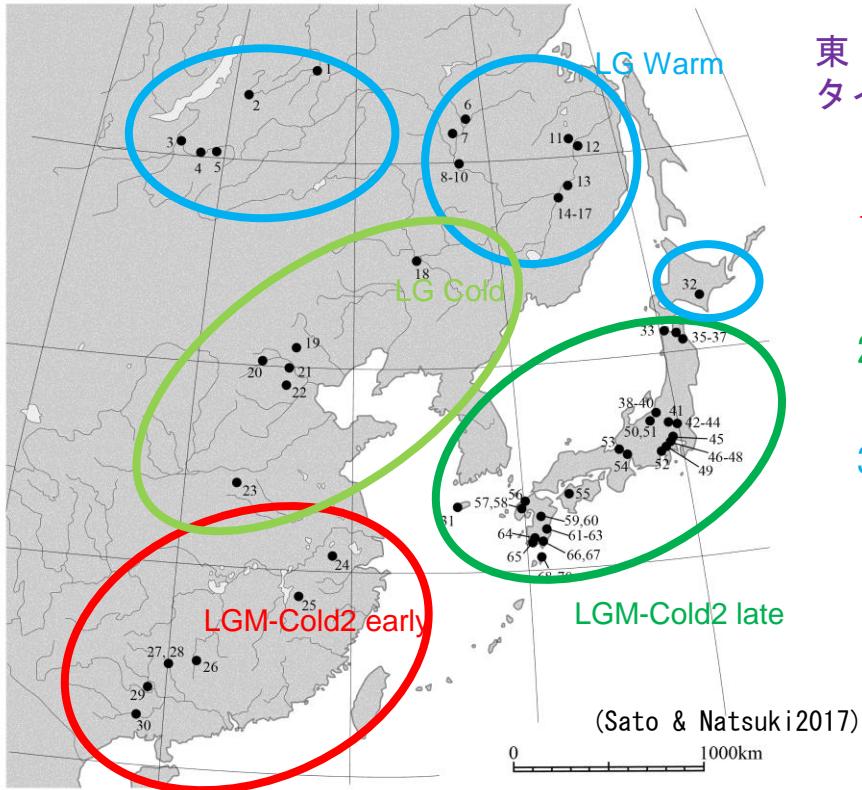


## 東・北東アジアにおける 出現期土器の編年と 気候環境の関係

1. LGM Cold-2前半(寒冷期): 22ka~  
東・南中国 年代幅大  
一地考古学による遺跡形成過程要検討
2. LGM Cold-2後半(向温暖期): 16. 5ka~  
日本列島本州以南 以降連続的
3. LG-Warm(温暖期): 14. 8ka~  
北海道、沿バイカル、アムール流域  
Transbaikal, Gromatukha,  
Novopetrovka→Oshipovka
4. LG-Cold(寒冷期): 13~11. 7ka  
中国北部・東北部、日本、Oshipovka

各地で出現した土器は、以降ほぼ継続

No.	Region	Site	Layer	Calibrated Age	Estimated climate	Note
East China	Xianrendong west trench	3C1B		22,700~19,200	LGM Cold-2	
		3C1A		20,000~16,500	LGM Cold-2	
South China	Yuchanyan		lower	18,200~13,500	LGM Cold-2/LG-Warm	
		Liyuzui		27,900~12,000	LGM Cold-2/LG-Warm	
LGM Cold-2 early	Miaoyan	5L,6L		25,500~20,500	LGM Cold-2	
		Zhuwuyan		21,400~20,000	LGM Cold-2	
Japan	Dushizi		lower	21,600~18,800	LGM Cold-2	
				21,900~17,000	LGM Cold-2	
LGM Cold-2 late	Odai-yamamoto I			16,900~14,800	LGM Cold-2	Tohoku
		Akahira		16,800~16,400	LGM Cold-2	Tohoku
Far East	Kitahara		3B	15,800~15,400	LGM Cold-2	Kanto
		Gitonenama 2N		16,400~15,700	LGM Cold-2	Kanto
LGM Cold-2 late	Fukui		2,3	16,200~15,700	LGM Cold-2	Kyushu
		Gromatukha		14,800~14,000	LG-Warm	AMS, Gromatukha Culture
Far East	Novopetrovka 2		lower or 3	15,600~10,800	LG-Warm/LG-Cold/PG	Novopetrovka Culture
		Goncharka 1		13,300~12,100	LG-Warm/LG-Cold	AMS, Oshipovka Culture
Transbaikal	Novotroitskoe 10		3	13,500~12,900	LG-Warm	Oshipovka Culture
		Oshinovaya-rechika 16		13,300~12,700	LG-Warm	Oshipovka Culture
Transbaikal	Gasya		5	13,300~12,600	LG-Warm/LG-Cold	AMS, Oshipovka Culture
		Khummi		16,200~11,700	LG-Warm/LG-Cold	Oshipovka Culture
Transbaikal	Ust'-Karenga 7		7	14,200~12,100	LG-Warm/LG-Cold	
		Ust'-Kyahuta 3		13,500~13,100	LG-Warm	
Japan	Studentoe 1		8,9g	14,000~13,300	LG-Warm	
		Ust'-Menza 1		13,500~13,300	LG-Warm	
Japan	Taisho 3			14,700~13,800	LG-Warm	Hokkaido
		Kiwada		14,500~14,200	LG-Warm	Tohoku
LG-Warm	Seiko-sanso B		Loc.5	14,400~13,700	LG-Warm	Chubu
		Kamiinoharu, Loc.5		13,600~13,100	LG-Warm	Kyushu
Northeast China	Houtaomugain		T1-6	12,500~11,400	LG-Cold	
		Nanzhuangtou		12,700~12,000	LG-Cold	
Japan	Lingjing			12,800~12,500	LG-Cold	
		Takihata		12,100~11,800	LG-Cold	Tohoku
LG-Cold	Kuzuharazawa 4		85	12,900~12,700	LG-Cold	Chubu
		Torimama, 83trench		12,800~12,000	LG-Cold	Kinki
Far East	Oshinovaya-rechika 10		3	13,000~12,200	LG-Cold	Oshipovka Culture

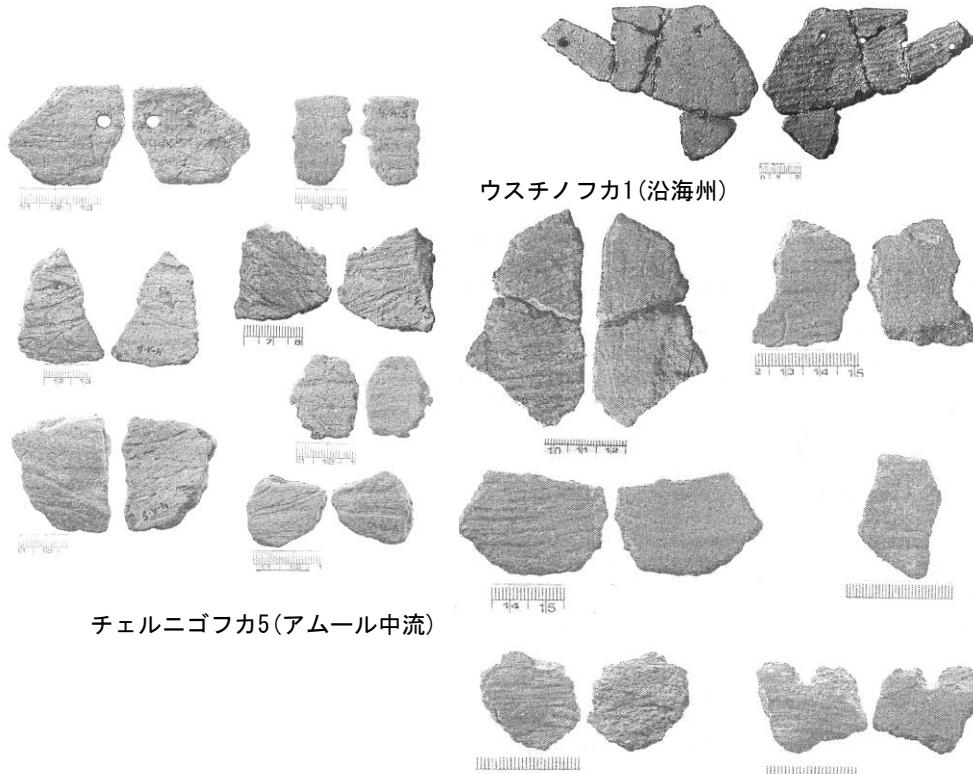
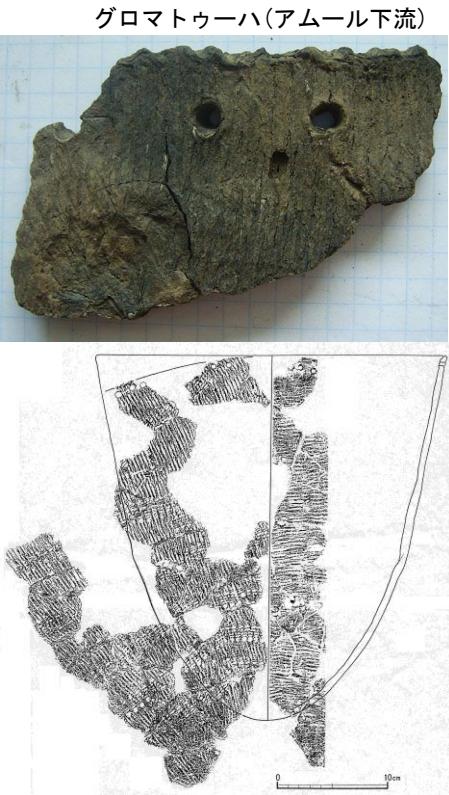


## 東・北東アジアの土器出現のタイミング

- 1 東・南中国 LGM-Cold2 前半  
(寒冷期) 22,000BP～
- 2 日本列島 LGM-Cold2 後半  
(向温暖期) 16,500BP～
- 3 沿バイカル・アムール流域  
・北海道 晩氷期前半 LG Warm  
(温暖期) 14,800BP～
- 4 中国北部・北東部 晩氷期後半  
LG Cold (寒冷期)  
13,000～11,700BP

仙人洞遺跡(東中国) 世界最古の土器, 23-20,000年前 (佐藤撮影)





クラスノヤ・ゴルカ(バイカル湖)



0 cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15



0 cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

ウスチ・  
ウリマ  
(アムール  
中流)



(佐藤撮影)

ゴンチャルカ(アムール下流)



0

5

10

15

## 日本列島における縄文化

縄文時代草創期の開始：16,500年前の青森県大平山元1遺跡

晩氷期(15,000～11,700年前)直前 北海道には本格的な草創期はない→大正3遺跡と石器を除く

草創期の時期区分

- (1) **溯源期** 16,500～15,500年前 LGM-Cold2 向温暖期だが寒冷基調  
cf. 神子柴系石器群→本ノ木石器群、細石刃石器群(北部九州)  
土器を持つ遺跡は少なく、石器のみ出土する遺跡も多い →遊動的な生活継続 穫穴住居出現
- (2) **●隆起線文土器期** 15,500～13,000年前 →ここから草創期(=縄文時代)の開始とする考え方もある  
LG-Warm 小温暖期 古本州島に広く遺跡分布、遺跡数増大 →人口増大
- (3) **●爪形文・押圧縄文・多縄文土器期** 13,000～11,500年前  
LG-Cold(Younger Dryas) 小寒冷期 →人口減少 but各種の遺構(炉穴等) 集落の出現

縄文化に向けた5000年間の「助走」期間

土器出現以降連綿と土器製作が今まで継続 →土器の出現から縄文時代の開始と考える  
文化要素は徐々に出現 →革命的な変化ではない

## 晩氷期の環境変動と人々の適応：縄文時代草創期

(1) 源溯期 16,500–15,500年前 LGM-Cold2 向温暖期だが寒冷基調

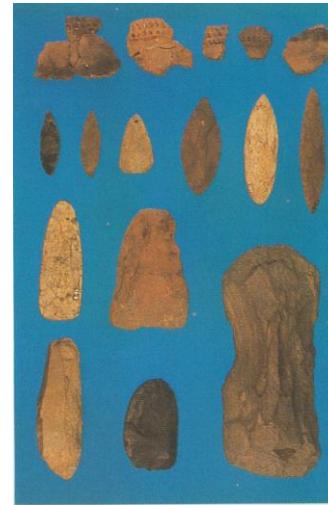
土器を持つ遺跡は少なく、石器のみ出土する遺跡も多い → 遊動的な生活継続 竪穴住居出現



青森県大平山元1遺跡 16,500–16,000年前  
神子柴石器群



神奈川県相模野No.149遺跡



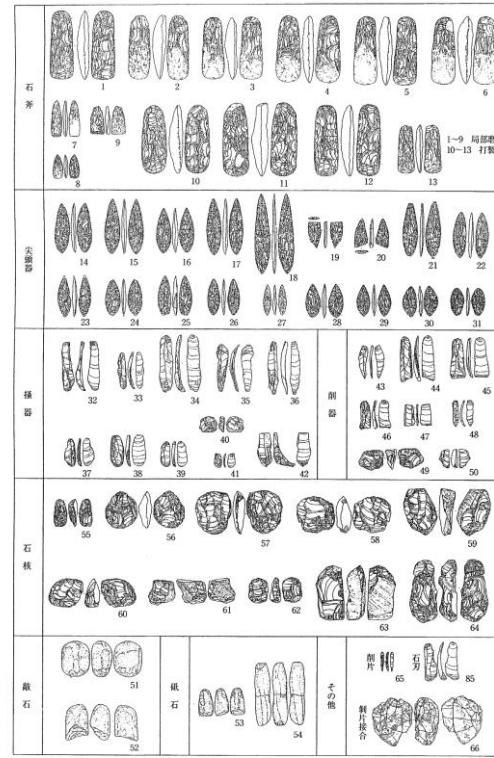
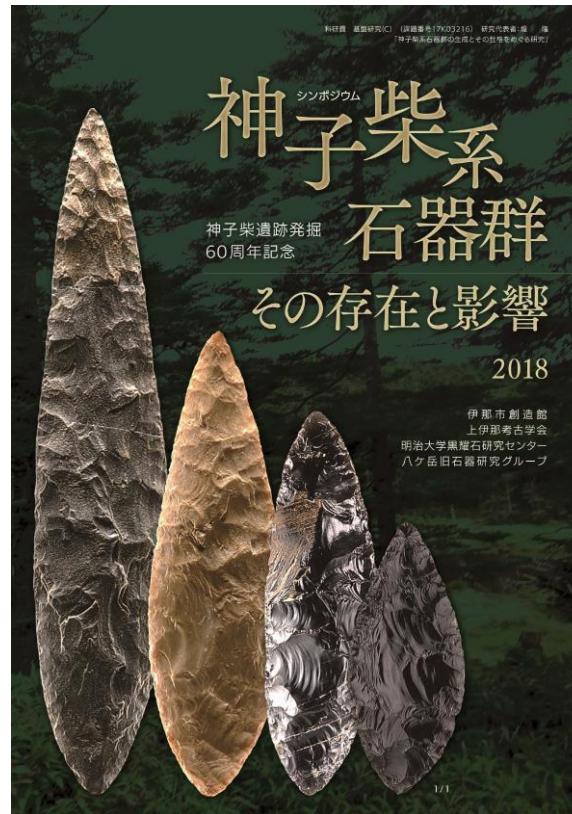
神奈川県寺尾遺跡

寒温带针葉樹林  
↓  
土器の用途：  
堅果類のアク  
抜きではない  
↓  
魚油生産?  
水産物処理



長野県神子柴遺跡  
16-15ka

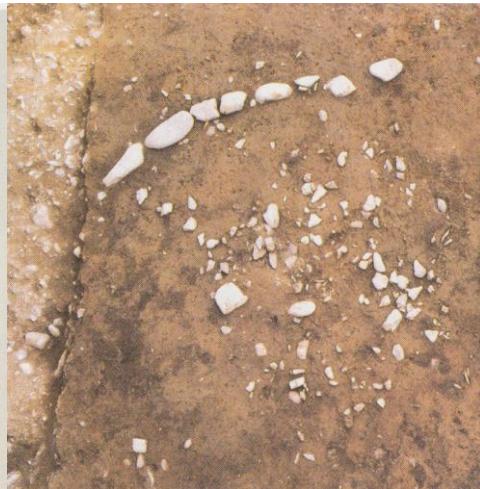
土器なし



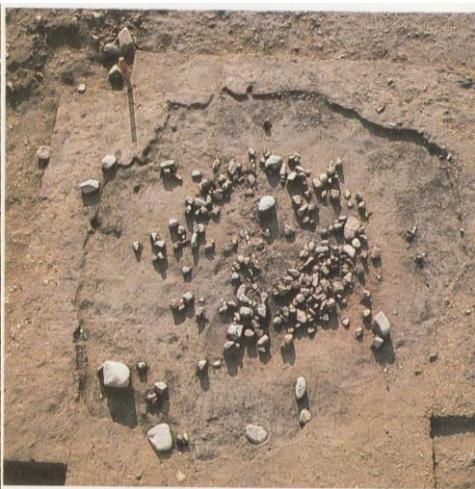
東京都前田耕地遺跡 15,500年前 無文土器片わずか



本ノ木石器群



住居跡



(東京都埋蔵文化財センター1992)

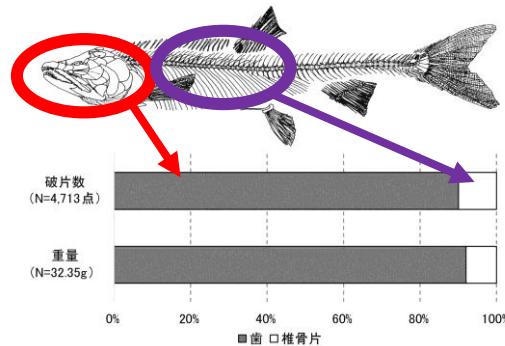


2 縄文時代草創期のサケ漁のキャンプ?  
—東京都前田耕地遺跡—

15,500年前

(工藤編2022)

## 17号住居跡から出土した動物骨



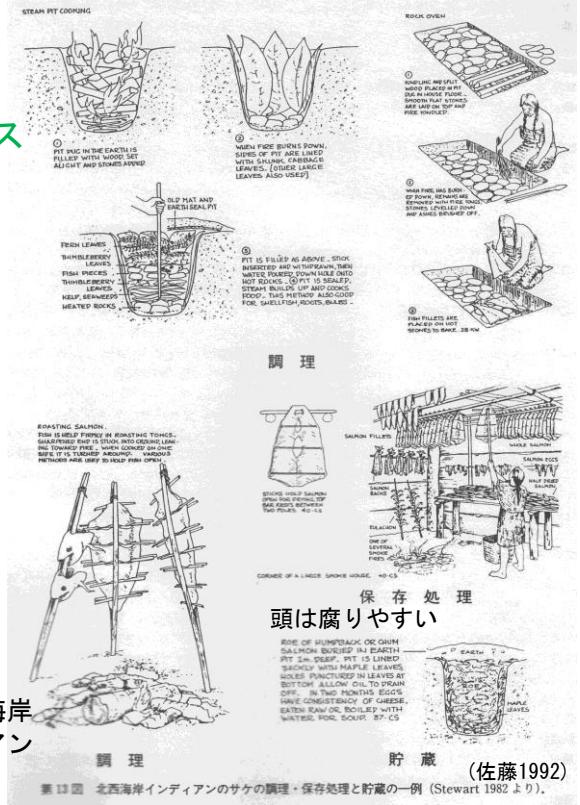
(山崎他2020)

### 動物骨の大部分はサケの骨(7,283点)

- 歯が9割以上を占め、胴体(椎骨)はほとんどない
- 作業小屋で胴体と頭部を分ける処理
- 利用価値の高い胴体を遺跡外に持ち出した
- その後の縄文時代で観察される行動の走り 居住地での消費or交易

クマとシカの狩猟も行なっていた

## 民族誌 にみる サケマス 漁



北米北西海岸  
インディアン

中国東北部・赫哲  
黒龍江省のサケマスの築



アイヌの漁撈用カギ・マレク

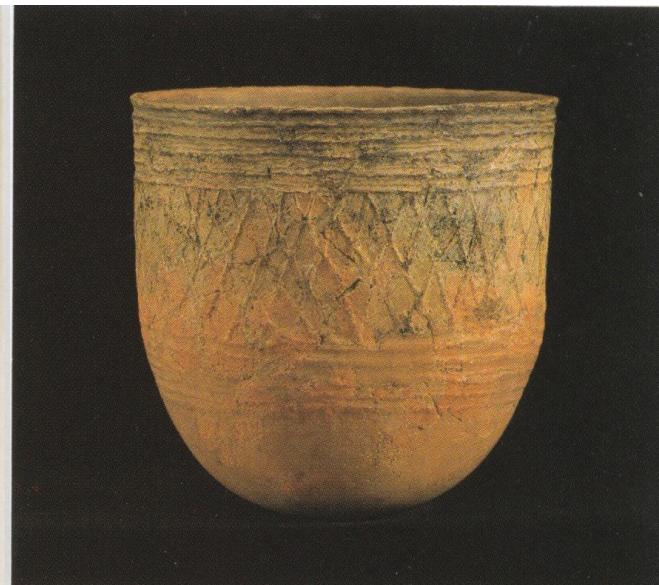


(2) 隆起線文土器期 15,500-13,000年前

LG-Warm 小温暖期 古本州島に広く遺跡分布、遺跡数増大 → 人口増大



神奈川県月出松遺跡



神奈川県上野遺跡

### (3) 爪形文・押圧縄文・多縄文期 13,000–11,500年前

LG-Cold (Younger Dryas) 小寒冷期 → 人口減少 but 各種の遺構(炉穴等) 集落の出現



群馬県川島谷遺跡  
爪形文



岩手県大新町遺跡  
爪形文



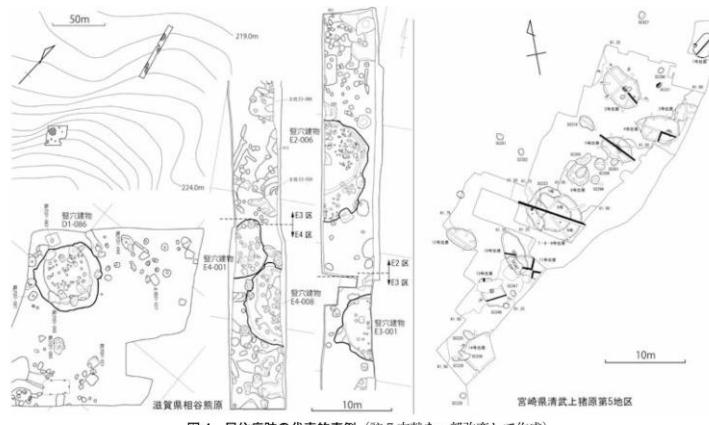
新潟県室屋遺跡  
押圧縄文





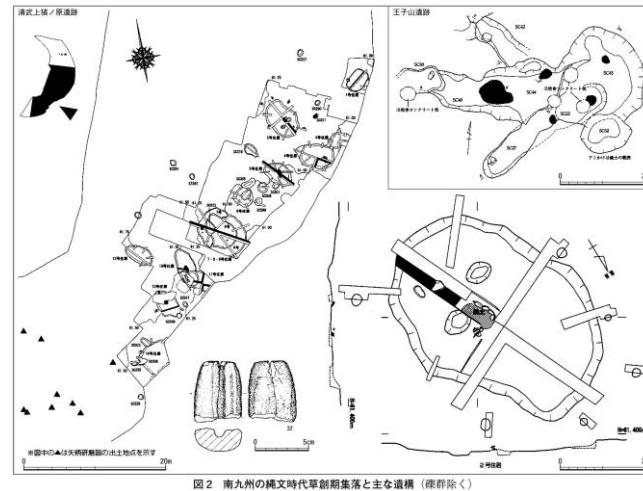
新潟県本ノ木遺跡  
多縄文

## 住居跡・集落の出現(草創期)



滋賀県相谷熊原

宮崎県上猪ノ原



宮崎県上猪ノ原

宮崎県王子山



宮崎県猪ノ原遺跡



宮崎県猪ノ原遺跡 住居跡



栃木県野沢遺跡 住居跡



静岡県大鹿窪遺跡

(佐藤編2015)

**最古の集落の出現**

## 4 縄文時代草創期の南九州の堅果類と石皿・磨石の利用

14,000-13,000年前



〔縄文はいつから?—1万5千年前になにがおこったのか?—〕2009



鹿児島県奥ノ仁田遺跡出土の  
石皿・磨石

(上2点とも西之表市教育委員会所蔵／横浜市歴史博物館提供)



奥ノ仁田遺跡出土器



鹿児島県東郷土田遺跡出土のコナラ  
属炭化子葉 (鹿児島県歴史・美術センター黎明  
館所蔵／工藤雄一郎撮影)

### ①石皿・磨石を使う

左のイラストは奥ノ仁田遺跡から出土した石皿・磨石をモデルとして描いた。縄文時代中期以降の整形された石皿とは異なり、板状の円盤を使用しているものが多い。復元イラストでは、石皿の上でドングリの果皮を割って中身の子葉を取り出しているシーンを描いており、秋の集落での一風景をイメージした。



王子山遺跡の集落模型 (国立歴史民俗博物館)

縄文時代草創期の縄文土器の時期の集落をイメージしたもの。模型のシーンの一つは左のイラストが素材となっている。



宮崎県王子山遺跡出土の石皿と磨石  
(都城市教育委員会所蔵／工藤雄一郎撮影)

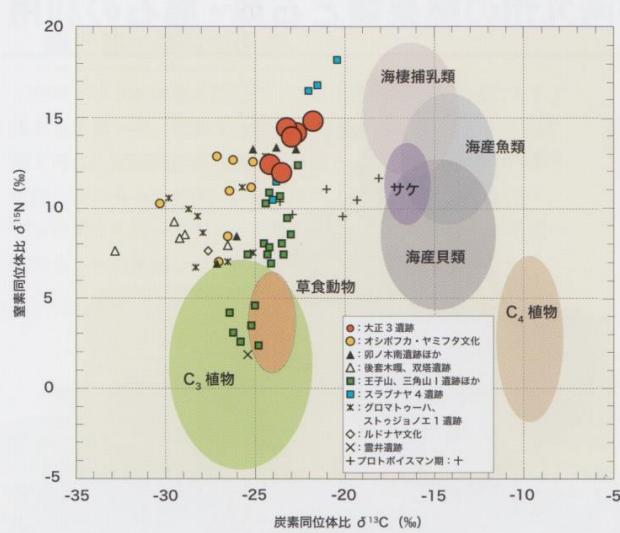
Copyright

縄文人のくわんじ

(工藤編2022)

### 3 北海道最古の土器と煮炊きの様子 —大正3遺跡の爪形文土器—

14,000-13,500年前



北海道大正3遺跡出土爪形文土器付着炭化物の  
炭素・窒素安定同位体分析（國本田 2020 を改変）  
大正3遺跡の土器付着炭化物（●）は、炭素・窒素同位体比が高く、海  
産物に近い傾向が示されている。

（工藤編2022）

## —本州東部の石器の変遷—



図3 出現期石鎌の分布と石鎌型式（註6文献を一部改変、註7文献より追加して作成）

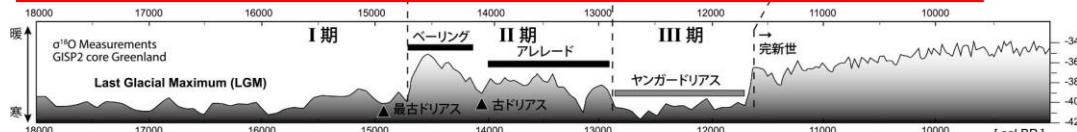
(佐藤編2015)

## 草創期の石器

## 草創期本州東部における文化要素の変化

徐々に出現・変化

石器	少	一定数あり	あり	⇒ 増加の傾向
打製石器の石材	遠隔地石材利用	近傍の石材が中心	近傍の石材が中心 ただし黒曜石の利用が増加	⇒ 暖暖な時期には近傍の石材利用
遺跡数	一定数あり	増加	減少	⇒ 暖暖な時期に増加
剥片石器への素材供給	一部で石刃。 両面加工石器からの供給あり	東北: 両面加工石器からの供給あり 中部: 両面加工石器からの供給あり (久保寺南では石刃) 関東: 両面加工石器からの供給なし	両面加工石器からの供給なし (東北では残存)	⇒ 徐々に供給なくなる。 地域差あり
漁労	証拠なし	証拠なし	鳥浜、櫛引遺跡で石錐出土	⇒ ヤンガードリアス期相当の時期に一部遺跡で見られるようになる
遺構	掘りこみなどなく 不明瞭なものが少數例	増加。ただし、 掘りこみなど不明瞭なもの大半	掘りこみ有するもの増加	⇒ 増加の傾向
形態	局部磨製と打製(神子柴型含む)	局部磨製と打製(神子柴型含む)	磨製石斧(礫斧など含む)	⇒ ヤンガードリアス期相当の時期に変化
サイズ	大形～小形	中形が中心	中形～小形	⇒ 小形化的傾向
出土量	一定量あり	増加(多量出土遺跡あり)	減少(出土遺跡少ない)	⇒ 暖暖な時期に増加
欠損痕跡	ほとんどなし(一部に再加工例)	欠損痕跡有例増加	欠損痕跡有例あり	⇒ 暖暖な時期より前には少ない
石材	打製石器と共に	打製石器と共に	打製石器と異なる石材利用	⇒ ヤンガードリアス期相当の時期に変化
形態	木葉形	細形	有茎	⇒ 小形化の傾向
調整技術	打撃	打撃	押圧	⇒ 暖暖な時期に変化
欠損痕跡	少	最も顕著	比較的顕著	⇒ 細形が最も顕著
想定される機能	突き槍、 ダート、 突き槍	弓矢、 ダート	弓矢	⇒ 弓矢狩への変化
再加工	再加工例あり	再加工例あり	再加工例少	⇒ 再加工減少傾向
文様等	無文など	隆起線文など	多綱文系など	/
出土量	少	増加	減少	⇒ 暖暖な時期に増加



(佐藤編2015)

図1 本州東部における変化<sup>13)</sup>

## 6 縄文時代草創期の狩猟具の変化と弓矢の登場

### 伝統的学説

突き槍→投げ槍→弓矢  
新石器(縄文)  
の段階的变化

弓矢の登場=人類史的変化

↓  
最近の学説  
突き槍→  
突き槍+投げ槍+弓矢  
=現代的行動  
=ホモ・サピエンスの出現



①突き槍

大型の尖頭器は突き槍や投げ槍の槍先と考えられており、0~3mの距離から大型・中型動物を狙つたのだろうか。近年、長野県神子廻遺跡の大型で優美な尖頭器の使用箇所からは、尖頭器が槍先としてではなく、「手持ちのナイフ」として使用された可能性が指摘された。大型の尖頭器がすべて石槍として使用されたわけではないのだろう。

尖頭器  
(新潟市小瀬・沢遺跡出土、長岡市教育委員会所蔵)



②投げ槍(投げ槍を使用)

投げ槍を用いた投げ槍は飛距離が数十mに及び、手投げの槍とは威力の面でも格段の違いがある。約8~30m先の中型動物を狙うこともできる。ヨーロッパでは、骨角製の投げ槍が縄文時代草創期と同時期の遺跡(後期旧石器時代のマグデルアンなど)から出土している。かつては、石槍(尖頭器)→矛尖頭器→石鎧といった変遷と、槍→投げ槍→弓矢といった変遷を対応させて考えていた時期もあったが、投げ槍そのものは後期旧石器時代から使用されている可能性が高いと考えている。

矛尖頭器  
(新潟市小瀬・沢遺跡出土、長岡市教育委員会所蔵)



③弓矢

弓矢は、約5~50m先の中型動物や小動物などを狙うことができる。石鎧は隆起線文土器の後半段階から多く見られるようになるが、一般化するのはそれより後の熊文土器や爪形文土器、多羅文系土器の時期であり、1万4,000年前以降の時期である。この時期の有舌尖頭器にも石鎧とほぼ同様のサイズの小型品が出土しており、また、約1万6,000年前頃の青森県大平山元I遺跡には形態的に石鎧と類似する石器が数点出土している。これらと弓矢の関わりはまだわかつておらず、弓矢の出現時期について謎が多く残されている。



石鎧  
(新潟市小瀬・沢遺跡出土、長岡市教育委員会所蔵)



石鎧  
(青森県大平山元I遺跡出土、外ヶ浜町教育委員会所蔵  
/国学院大学考古学研究室提供/小川忠博撮影)

(工藤編2022)

## 旧石器時代から縄文時代にかけての石器・居住痕跡等の変化

草創期

年代 (calBP)	19,500	16,000	15,500 ~ 15,000	14,000	13,200 ~ 13,000	12,300 ~ 12,000	11,500	11,000 ~ 10750	8,500
段階		1 LGM Cold-2	2	3 LG Warm	4	5 LG Cold	6	7 PG Warm-1	8
土器型式			無文	隆起線文	微隆起線文 隆帶文・円孔文 無文・爪形文	爪形文 押圧縄文 無文	多縄文 無文	表裏縄文	撫糸文・沈線文 押型文
細石刃	本州北 本州南 九州								
有茎尖頭器	本州北 本州南 九州								
神子柴型石斧	本州北 本州南 九州								
有溝砥石	本州北 本州南 九州								
石鎌の型式変遷				大形二等辺三角鎌 先端突出形態	曾根型三角鎌 長脚鎌・円脚鎌	菱形鎌 円基鎌	先端突出形態 +局部磨製 Y字型石鎌	Y字型+局部磨製 菱形鎌+局部磨製 小形五角形鎌	
磨石・凹石・石皿									
住居状遺構									
陥穴跡群	(九州)								
黒曜石採掘活動									

図1 年代値の整理と石器群・居住痕跡などの変遷（註2文献を一部改変）

（佐藤編2015）



佐賀県東名遺跡復元図  
(佐賀市教育委員会提供、早川和子画)  
有明海に面した東名遺跡は、縄文時代早期後葉の低湿地遺跡である。遺跡からは、編みかごが多数出土した。手前中央は、編みかごの製作風景（手間：貯蔵用の大型かご、奥：運搬用の小型かご）。左側の低地部には大型の貯蔵穴に編みかごを入れ、ドングリ類を水没させる作業が描かれている。周辺の台地には落葉広葉樹の二次林、奥にはイチイガシなどの常緑広葉樹林が広がっていたと推定されている。



東名遺跡大型の編みかご（体部：イヌビワ、帯・耳部：ツヅラフジ）  
左：実物（佐賀市教育委員会提供）右：復元（あみもの研究会提供）



東名遺跡ナラガシワ果実の貯蔵穴（SK3001 断面）  
(佐賀市教育委員会提供)  
ナラガシワは現在の日本列島はほとんど生育していないが、暖温帯落葉広葉樹林域では食料として重要なドングリ類であった。

### 佐賀県東名遺跡 早期後葉の低湿地遺跡

## 3. 本格的な縄文文化の成立： 縄文早期の文化と生活



千葉県船橋市取扱西貝塚竪穴住居跡（SI-002）の貝層断面と歯骨出土状況

（佐藤編2015）

貝塚の形成  
大陸棚の形成により浅海が出現  
↓  
海洋バイオマス  
増大→  
海産資源の利用  
開始



千葉県香取市（旧香取郡小見川町）城ノ台南貝塚  
貝層堆積状況（上）および埋葬人骨出土状況

表1 関東地方における縄文早期の貝塚・集落数の推移<sup>4)</sup>

	撚糸文期 (約1500年間)	貝殻沈線文期 (約1200年間)	糸痕文期 (約1300年間)
貝塚数 (現海水準以上)	7	2	88
集落遺跡数 住居跡数	90遺跡 342棟	22遺跡 71棟	132遺跡 489棟

## 丸木舟の出現：早期が最古



千葉県市川市雷下遺跡(早期末葉)の丸木舟

## 土偶の出現：草創期後半から



堅穴建物 D1-086 (東から撮影、本文図 3 を参照)

無文土器 (S=1/5)



## 滋賀県相谷熊原遺跡(草創期後半) 石鏃出現

## 住居跡数および洞窟 ・岩陰居住、 遺跡群の時期的变化

遺跡数=人口動態を反映  
洞窟・岩陰居住→平地

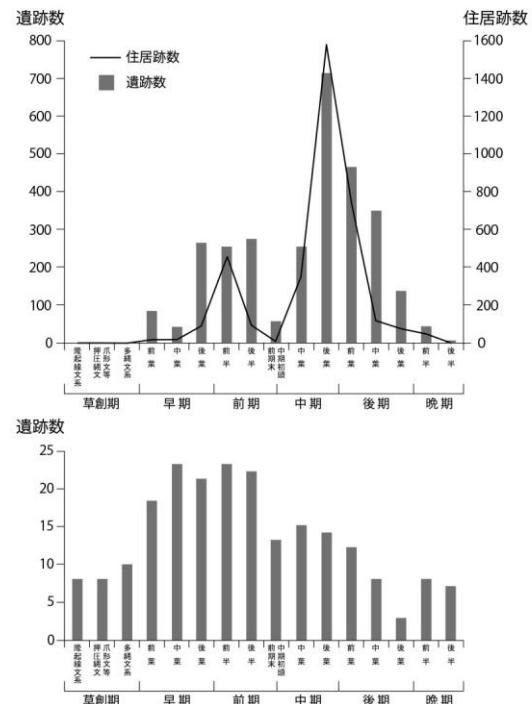
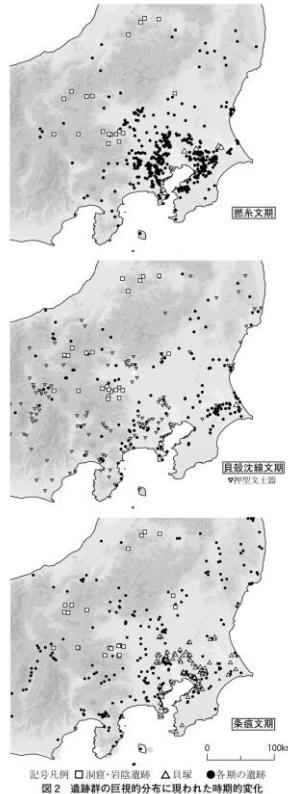


図1 東京湾東岸地域（上）および関東周縁の洞窟・岩陰遺跡（下）における遺跡数の時間的变化<sup>8)</sup>



記号凡例 □ 洞窟・岩陰遺跡 △貝塚 ●各期の遺跡  
 図2 遺跡群の巨視的分布に現われた時期的変化

## 縄文時代早期の生活：11,700～7,000年前 森林性新石器文化

**狩猟**：氷期の疎林・草原から温帯森林へ → 槍から弓矢(シカ・イノシシ猟)へ イノシシの管理

**漁労**：海面上昇→浅海・干潟の出現 → 内水面漁労(草創期)から外水面漁労 沿岸→外洋(前期以降)

多様な漁法 網・ヤス・鈎・釣り 丸木舟 貝の管理

**採集**：氷期の疎林・草原から温帯森林へ 森林の植物資源利用

堅果類(ドングリ・クリ)採集 豆・ヒヨウタン・エゴマ・ウルシ等の栽培

編組製品 水場遺構

**居住**：遊動から定着へ 竪穴住居の出現 集落の形成 集石・炉穴・陥し穴

\*ただし年間定住はない → 弥生以降

**土器**：魚油や水産資源の利用→堅果類のアク抜き

\*土器の大量利用→縄文の特徴

**石器**：石鏃(狩猟具) 石匙・磨石・石皿等(加工具) 磨製石斧(伐採具)

**交換・交易**：モノ・情報ネットワークの発達 直接採取→間接入手 社会関係の安定化

**精神生活**：土偶の出現 墓? 配石



縄文早期が開始されると、縄文文化の基本的要件はすでに出現！ ←四季の出現

早期後半にはほぼ縄文文化が確立する

縄文文化の範囲=列島にほぼ限定

ご静聴ありがとうございました！

氷河時代(最寒冷期)と  
縄文時代(完新世)の植生

(辻2002)

